≪平成21年度　薩摩川内市事務事業評価表≫

1　事務事業の位置付け（Plan）				内部評価者名 課長・室長・支所長	田畑　茂己
事務事業名	薩摩川内市文化財少年団事業			担当者	鮫島　弘宣
所管部課名	教育部　文化課			事業の根拠 （根拠法令）	
事業の種類	☑ ソフト事業　☐ 建設・整備事業　☐ 施設管理　☐ 内部管理				
総合計画上の位置づけ	施策の基本方針	政策（章）	地域の特色を活かした教育・文化のまちづくり	主要施策（節）	地域文化の保存・継承
				施策（項）	文化活動の推進

予算科目等				
会計	一般会計	款	教育費
項	社会教育費	目	文化振興費
事項	文化財保護事業費	細事項	文化財保護事業費

事業の概要

文化財保護は，まずそれを知ることから始まる。未来を担う子どもたちに，普段の生活や学校教育の中だけではなかなか接することができない文化財に触れる機会をつくる。年間を通して，公募によりメンバーを固定し，各回でテーマを定め，文化財の散策を主に行う。

2　事務事業の実施　（Do）

事業の内容			事業開始年度			平成19年度
	対象（誰を，何を対象とする事業か）	市内の小学5年生～中学3年生	活動指標（市として何を行うか？）	指標名	①	活動回数
					②	
	手段（市がどのような活動をするか）	年6回，テーマを定め，主に市内の文化財を散策する。		最終目標値	①	6回/年
					②	
				最終年度	①	（平成23年度）
					②	
	意図（どのような目的で事業を行うか）	先人の生活，郷土の歴史を学び，ふるさとを再発見し，郷土を愛する心を育むことを目的とすると共に，後継者育成にもつないでいく。	成果指標（活動をした上で，目標となる成果をどのように設定するか？）	指標名	①	参加者数（延べ）
					②	
				最終目標値	①	120人
					②	
				最終年度	①	（平成23年度）
					②	

コスト・指標の推移	項目		単位	平成19年度決算	平成20年度決算	平成21年度（見込み）	平成22年度（見込み）	平成23年度（見込み）
	事業費	国・県支出金	千円					
		その他						
		一般財源		87	83	189	188	597
		合　計（A）		87	83	189	188	597
	従事職員数		人	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
	人件費（B）		千円	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	従事嘱託員数		人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	人件費（C）		千円	0	0	0	0	0
	トタールコスト		千円	2,087	2,083	2,189	2,188	2,597
	活動指標の推移	①		6回/年	6回/年	6回/年	6回/年	6回/年
		②						
	成果指標の推移	①		77人	64人	60人	120人	120人
		②						

事業費の主な支出内容（事業内容がわかるよう，支出する主なものを記入してください）

旅費（甑島乗船料）
消耗品費（少年団員Tシャツ，帽子，ネーム等）
使用料及び賃借料（バス借上料）

3 事業の視点別評価 (Check)

妥当性	対象・手段の妥当性	☑ 妥当である　☐ 改善の余地はある　☐ 妥当でない
	(上記選択の理由) 学校の現在の教育課程では，郷土史を学ぶ時間は少ない。単発で行うよりも年間でメンバーを固定して行うことで，学ぶ姿勢も向上し，郷土史はもとより，郷土愛を育む効果が期待できる。	
	市が関与すべき妥当性	☑ 市で実施すべき　☐ 民間でも可能　☐ 民間で実施すべき
	(上記選択の理由) 単発な史跡めぐりであれば，民間でも十分可能だが，少年団については，育成というコンセプトがあるので，教育委員会で行うのが妥当である。	
効率性	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある　☑ 削減余地はない
	(上記選択の理由) すでに最低限の予算で行っており，これ以上の削減の余地はない。	
	人件費の削減余地	☐ 削減余地がある　☑ 削減余地はない
	(上記選択の理由) 子どもたちの監督を行ううえで，これ以上の削減の余地はない。	
有効性	成果の達成度	☐ かなり高い　☑ やや高い　☐ 低い
	(上記選択の理由) まちづくりを行ううえで，地元の歴史や文化については必要不可欠なカテゴリである。現在の大人が自分の郷土のことをほとんど知らないのは，こういった機会がなかったからで，地元の財産を知らないまま，まちづくりを論議している現状である。文化財少年団の活動を通して，少しでも多くの子ども達に自分たちの郷土のことを知ってもらい，文化財保護はもちろん，将来的に薩摩川内市のまちづくりに活かされることが期待できる。	
	成果の向上余地	☑ かなりある　☐ ある程度ある　☐ ほとんどない
	(上記選択の理由) 継続率も目標値を超え，新規入団者も毎年，出ている。また，今年度からOBやOGを対象にしたサポーター制度を始め，人材育成も試みている。	

4 事業の改革・改善の方向性 (Action)

内部評価（一次）	①今後の改革の方向性 ☐ 現状のまま継続 ☑ 見直しの上で継続→今後の方向性　☐ 拡大　☐ 他の事業と統合　☐ 手段の改善　☐ 移管　☐ 縮小 ☐ 休止　☐ 廃止
	②上記方向の理由 まったくの新規事業として平成19年度からスタートしたが，毎年担当者が替わっており，まだ事業として試行錯誤の状態である。 子どもたちが主役の事業ということもあり，随時見直しを進めながら継続していくのが望ましい。
	③改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画 現在はまだ「知る」「触れる」「体験する」といった「受け」に重点を置いた活動である。 将来的にはサポーターを中心に，子どもたちによる「発表」「説明」「ディスカッション」もメニューに組み入れていく必要がある。

内部評価（二次）	評価者名
	①内部評価結果 妥当性 ⇒ ☑ 高い　☐ 低い 効率性 ⇒ ☐ 高い　☑ 低い 有効性 ⇒ ☐ 高い　☑ 低い
	②今後の改革の方向性 ☐ 現状のまま継続 ☑ 見直しの上で継続→今後の方向性　☐ 拡大　☐ 他の事業と統合　☑ 手段の改善　☐ 移管　☐ 縮小 ☐ 休止　☐ 廃止
	③上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画 (内部評価一次と違う部分) ● 事業目的のピーアールと，参加者の増加・拡大